

あたらしくはいった本 (令和4年9月 貸出開始資料から)

- 小説 イオカステの揺籃(遠田潤子/著) 若葉荘の暮らし(畑野智美/著) 患者の階梯(松井今朝子/著) オリンピックを殺す日(堂場瞬一/著) 素数とバレーボール(平岡陽明/著) 掌に眠る舞台(小川洋子/著) ハヤブサ消防団(池井戸潤/著) ペットショップ無惨(石田衣良/著) 首取物語(西條奈加/著) 英雄(真保裕一/著) 介護者D(河崎秋子/著) 新!店長がバカすぎて(早見和真/著) 流浪地球(劉慈欣/著) 子供が王様(デルフィーヌ・ド・ヴィガン/著)
- 随筆・詩などの文学 絵本のことば詩のことば(内田麟太郎/著) 戦争日記(オリガ・グレベンニク/著) 小田嶋隆のコラムの向こう側(小田嶋隆/著) 透明な膜を隔てながら(李琴峰/著)
- その他の本 気象病ハンドブック(久手堅司/著) 60歳からの疲れない家事(本間朝子/著) 社会保障のトリセツ(山下慎一/著) 学べるお菓子レシピ 理数系スイーツ(太田さちか/著) まちづくり仕組み図鑑(佐藤将之、馬場義徳/著)



『イオカステの揺籃』
遠田潤子
中央公論新社



『若葉荘の暮らし』
畑野智美
小学館



『絵本のことば詩のことば』
内田麟太郎
皓星社

- 「だざいふのとしよかん 令和3年度の報告」を発行しました。詳しくは、市民図書館ホームページに掲載しています。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来館の際はマスク着用などの協力をお願いします。

みんなのとしよかん



市民図書館
TEL (921) 4646
FAX (921) 4896
<http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/>

としよかんカレンダー

令和4年	日	月	火	水	木	金	土
11	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30			

○印の日は、お休みです。

開館時間 午前10時から午後6時まで

金曜・土曜(祝日除く・太字の日)は午後7時まで

亀井南冥の息子たち

大宰府政庁跡に建つ「太宰府碑」の文章を起草した、江戸時代の儒学者亀井南冥(1743~1814)については『太宰府人物志』と本年の公文書館パネル展でも紹介しましたが、今回はその息子たちを取り上げます。

南冥には、昭陽(1773~1836)、雲来(1774~1825)、大年(1777~1812)という3人の息子がいました。

福岡藩藩校甘棠館の館長であった南冥が、突如役を解かれ塾居処分となった後、家督を継いだのは長男の昭陽です。彼は父の学問を深化し大成させるとともに、門人の育成にも力を注ぎました。次男の雲来は、幼くして仏門に入るも、後に還俗して医師となり、太宰府で開業。三男の大年は、姪浜でこちらも医師として活動しました。

昭陽の塾に学び、亀井家と親しかった日田の学者広瀬淡窓は、自著『懐旧楼筆記』で三兄弟について次のようなことを書いています。

○昭陽先生は、南冥に似た豪胆な気性で、物事に対して憤る心は人一倍激しい。しかし、父親がそれで罪を被ったことから、本来の気性を



～公文書館だより⑩～

抑え自分を律している。父母によく仕え弟たちを大切にしている。○大壮(雲来)は、兄弟の中で最も寛容な気持ちの持ち主である。○大年は、才気煥発過ぎて傲慢であり、礼節というものに我慢できない。

このように性格は異なるものの、兄弟仲は大変良く、助け合いながら父親を支えました。また、三人そろって詩文の才に恵まれており、父南冥、叔父曇栄と合わせて「五亀」と称されるほどでした。

宰府村に暮らした雲来は、医業の傍ら、私塾「雲来社」で子弟の教育を行いました。太宰府の医師中川昌沢も少年時代に雲来に学んだ一人です。公文書館の中川家文書には、昌沢が書き写した『雲来詩集』が残されています。これを見ると、若き日の雲来の交友関係や心情が窺えるとともに、兄昭陽、弟大年を詠んだ漢詩からは、兄弟に対する細やかな愛情を読み取ることができます。

【バックナンバーはこちら】

ページID 7241

太宰府市公文書館

荻野 寛美